

# 魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名： 平田知子 所属： 小豆島中央高校 記録日： 2018年 2月10日

キーワード： 読み書き支援、学習支援、学習意欲、大学入試

## 【対象児の情報】

### ・ 学年

高校2年生 男子生徒

### ・ 障害名

読み書き障害（ディスレクシア、ディスグラフィア）

### ・ 障害と困難の内容

漢字とアルファベットの認識が難しく、読むことに時間がかかる。

自分の書いた文字を認識することが難しく、ノートを見返すことができない。

## 【活動目的】

### ・ 当初のねらい

- (1) 本人の困りの原因を検証し、最適な合理的配慮を精選する。
- (2) 学習方法の確立により、自分で学べるようになる。
- (3) 学習の動機づけと学力の向上。

### ・ 実施期間

平成29年5月から平成30年1月

### ・ 実施者

平田知子

### ・ 実施者と対象児の関係

学級担任及び教科担当

## 【活動内容と対象児の変化】

### (ア) 対象児の事前の状況

#### 書くことについて

- ・カタカナとひらがなは認識も書くこともできる。
- ・小さいスペースに文字を書くのに時間がかかる。
- ・ノートに板書を取ることはできるが、書くことに多くのエネルギーが必要で、書くことに集中すると書いている内容がわからなくなる。また、整った字で書けないため後で参照することが難しい。

#### 読むことについて

- ・漢字とアルファベットの認識が難しい。
- ・長い文章になると自分で書いた文字を認識することはできないが、試験の答案の語句くらいなら認識できる。
- ・ウラウスを実施した結果、読みの速度が遅いことがわかっている。
- ・行間が詰まっていると読みにくさを訴える場合がある。

#### 家庭学習の様子

- ・平日は1時間程度。
- ・文字を見ること自体に抵抗はなく、家庭学習として教科書を開くことも多い。

#### 生徒の様子

- ・試験での低い点数も見慣れているようで、欠点でも生徒に焦りはない。
- ・コミュニケーションに問題はなく、読めないところは自分で教科担当に申し出ることができる。
- ・学習意欲は高く、提出物は期限までに仕上げ提出することができ、授業態度も良好である。
- ・大学進学を希望しているが学力は高くなく、推薦入試での進学は難しい。農学部への進学を希望して居る。

#### 高校で実施されている合理的配慮

##### 〈授業における合理的配慮〉

- ・教室の座席を一番前に配置
- ・タブレット端末による教科書の閲覧
- ・タブレット端末による板書の撮影
- ・授業で使用するプリント教材の拡大、ルビうち
- ・ICレコーダーの使用

##### 〈定期考査における合理的配慮〉

- ・数学以外の別室受験
- ・本人から申し出のあった科目（数学以外）の試験時間の延長（1.3倍）
- ・全科目問題文の拡大、ルビうち
- ・本人から希望のあった科目（現代文、古典、コミュニケーション英語Ⅱ、異文化理解、国語総合）の読み上げ

##### 〈その他の合理的配慮〉

- ・ボカペンを使つての学習

(イ) 活動の具体的内容と事後の変化

(1) 本人の困りの原因を検証し、最適な合理的配慮を精選するについて

① WAVES の結果

下位検査	評価点	下位検査	評価点	下位検査	評価点
線なぞり	8	形あわせ	9	形おぼえ	7
形なぞり	9	形さがし	5	形うつし	9
数字みくらべ I	2	形づくり	5		
数字みくらべ II	1	形みきわめ	7		

※評価点は10で同じ年代で平均。6～7で弱さがある可能性が疑われ、5以下で弱さがある。

指数

VPECI	ECGI	ECAI	VPI
9.4	9.1	10.1	7.7

※指数86以上で弱さは認めない、76～85で弱さがある可能性がある。

以上の結果より、特に処理速度・短期記憶・視覚的注意に弱い部分があり、さらに形や空間を捉えることが苦手であると予想される。

② URAWSS-English の実施

「E→J 課題」 英語を日本語に変換する課題

- ・アルファベット表記で出題・・・評価C（同年齢と比べて英単語の語彙力・綴り力が十分ではない。）
- ・読み上げで出題・・・評価B（同年齢よりやや語彙力・綴り力が弱い。）

「J→E 課題」 日本語を英語に変換する課題

- ・アルファベット表記で解答・・・評価C
- ・カナ表記で解答・・・評価A（語彙力・綴り力は年齢相応）

以上の結果より、発問の際の音声読み上げと解答の際のカナ表記に効果があることがわかった。

③ URAWSS-II の実施

	1分あたり・正答数	評価
書き課題	27.6	C
書きの介入課題（問題文拡大）	28.6	B
読み課題（読み速度）	276.9	B
読み課題・内容理解	6/6	5 正解以上
読み課題・内容理解（代読）	6/6	5 正解以上

※評価Bは読み書きの速度が平均よりも遅い傾向にある（要観察）、評価Cは読み書きの速度がかなり遅い傾向にある（要精査）

内容理解問題の本人の主観評価については、「読んでもらう方がわかりやすい」の回答だった。

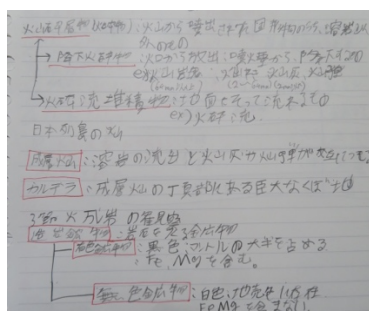
なお、今回実施した URAWSS-English 並びに URAWSS-II の評価は対象を中学生として算出したものであるため、対象生徒が高校生であることを考慮すると、出た結果以上に課題がある可能性がある。

## (2) 学習方法の確立により、自分で学ぶようになるについて

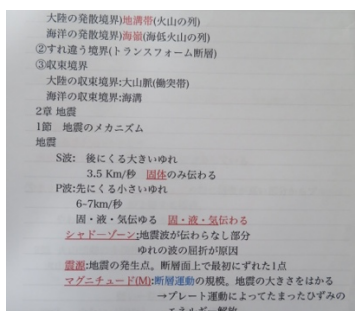
### ① タブレットでの授業ノート作成について

授業ノートが家庭学習に使えず、定期考査の勉強の時にノートを見ながら教科担当が準備したプリントを解こうと思ってもできなかつた。教科書を見ながら解くと、ノートを参照する以上に文字の量が多いためとても時間がかかった。そのため、家庭学習に使える、本人が認識できるノートを作ることを狙いに、タブレットに書きこんだ文字をデータに変換できる「7notes」というアプリを用いてノートを作成した。生徒自身の文字である程度正しく認識されること、データにした後音声読み上げを他のアプリで行えること、本人に「周りがノートを書いているときは自分も書いていたい。」という思いがあり、今まで紙とペンだったものがタブレットと指に変わるだけであるということ、変換が間に合わなくなった場合は一旦そのまま保存しておいて、後で変換可能なことなどを含めこのアプリを用いることにした。また、昨年度実施していた英単語の小テストの際に聞いて覚えるだけではなく、一度集中して丁寧に書くことで得点がアップしたため、書くという行為は記憶の定着のために有効である可能性があった。10月より、担任の教科で先行実施し、11月より他の教科でも実施した。教科によっては手書きの方がいいとの申し出があったため、どの教科で利用するかは本人が判断した。

また、教科担当の説明が始まったら手を止めて話を聞くことに集中することを約束とした。書ききれなかった部分については、授業後の休み時間を利用して書ききることができており、話を集中して聞く意識を持つと、内容が頭に入って来やすかつた。家庭学習に少しずつノートが活用できるようになり、テスト前に見返すのに役立っている。



本人直筆ノート



タブレットで作成したノート



ノート作成の様子

### ② 音声による学習について

音で入ってくる情報の方がわかりやすい自覚が生徒にあったため、効率的に予習ができるのではないかと、また、授業中に教科書やプリントを読んでいる時どこを読んでいるかが分からなくなると、頭の中がパニックになり教員の説明を聞く余裕がなくなっていた。予習をしてから授業に臨むことで、読むときの不安を軽減することをねらいとし、アプリ「good reader」「ever note」を用いて、PDF化した教科書を読み上げた音声を聞いてから授業に臨むようにした。前日の夜に必ず1回、可能なら当日の朝にさらに1回聞くようにした。

国語(現代文)と英語は10月より読み上げを聞いてから授業に臨むようになった。国語の古文や漢文は、アプリの読み間違いを聞いてしまっていることで授業中に混乱するため、中止した。また、社会や理科の科目でも効果がありそうだったため、11月には国語(現代文)、コミュニケーションⅡ、地学基礎、政治経済、世界史Aで音声による予習を取り入れた。

音声による予習を取り入れてからは、授業中に当てられてもあたふたすることが少なくなったり、



読んでいるところを見失った時に見つけられるようになった。それにより、教員の説明も落ち着いて聞けるようになった。予習に取り組むようになって、世界史など成績も上がった教科があり、「予習のおかげかもしれない。」という本人の認識もあった。

〈予習を取り入れた教科の定期考査得点推移〉

	1学期中間	2学期中間	2学期末
現代文	36	47	50
異文化理解（外国語）	38	34	71
世界史	65	73	78
地学	48	57	49

また英語は、URAWSS-Englishの結果から、正しい綴りは書けないが音としての認識はできていることが分かったため、特に音声での学習が有効であると考えられた。綴りを覚えるより発音で覚える方が覚えやすかった。昨年度より、定期考査の際には読み上げ担当の教員が監督にあっていたが、音声での学習ができていなかった。「試験で読み上げがあると時間は短縮されてありがたいんですが、どの単語がどの発音か分からないので正しい答えが選べないです。音声で学習ができるようになればもっといいですね。」という本人からの申し出もあり、定期考査前に配布される対策プリントや授業中にしようしたプリントを「ボカペン」を用いて音声で学習できるようにした。教科担当にお願いして、定期考査の要点や重要問題をまとめた対策プリントを、ボカペンで学習できるように音声を吹き込んでもらった。ALTも音声吹き込みに協力してくれた。

音声で学習ができるようになってからは、大体の綴りと音声を関連づけて覚えておくことで、正解を導けるようになった。自由英作文などは難しい部分もあるが、空欄補充問題や単語の並べ替えによる英作文問題などは音声を頼りに解けるようになってきた。また、音声を繰り返し聞き、綴りをなんども見ることで綴りを覚えることにも繋がっている。

〈英語に関する科目の定期考査得点推移〉

1年	1学期中間	1学期末	2年	1学期中間	2学期中間	2学期末
コミュニケーション英語Ⅰ	21	18	異文化理解	38	34	71
英語表現Ⅰ	13	22				

### (3) 学習の動機付けと学力の向上について

#### ① 校外模試（進研模試総合学力テスト・高2 7月・11月）の実施

国語、数学、英語の3教科、記述式の模試を受験した。全教科問題用紙の拡大、読み上げを実施し、数学以外は時間延長を行なった。大学入試センターに問い合わせたところ、センター試験でのルビうちは困難な可能性が高いとのことだったので、今回はルビは打たず、読み上げでの実施とした。

結果

科目	得点（100点満点）		偏差値		全国平均点（100点満点）	
	7月	11月	7月	11月	7月	11月
国語	23	15	38.8	30.6	38.4	44.1
数学	0	4	34.7	37.2	30.3	30.8
英語	8	10	35.9	35.3	33.3	36.4

## ② 授業外の学習について

「課題として与えられるとやる気になるが、自主的に勉強するのは苦手。模試を受けて、数学をまず少しでも得点したい。」と言う本人からの申し出により夏休みに数学の課題に取り組んだ。内容は数学I・Aの1年次の復習。証明問題は文字が入ることと、形を捉えること、問題文中の条件を図に対応させることが大変で特に苦手としているため、まずはそれ以外の分野の基本的問題約300題を課題とした。部活後学校で2時間程度、残りは家庭で取り組んだ。1日見開き3ページを目標に設定した結果、目標以上に取り組み、間違えた問題の直しまでできた。夏休み中に解いた問題は約400題である。

その後も引き続き数学の課題に取り組んだ。毎週金曜日7限目を実施されている課外に参加し、解いて来た数学の問題でわからなかったところを質問したり、アルファベットに慣れるためにタイピングに取り組んだりした。

## ③ 志望校の検討について

具体的到達目標を明らかにすることで学習の動機付けをねらいとし、担任と定期的に進路に関する面談を行った。大学や専門学校などを調べ、保護者の意見や自分の意思も踏まえて志望校を決定した。入試の方法や内容を調べる中でわからないことがあったときは、自分で学校に電話で問い合わせを行った。

問い合わせの結果、推薦入試で合格を決める学生の割合が高く、推薦入試を受験するためには一定値以上の評定平均が必要であることが分かった。評定平均を上げるため、今以上に定期考査の得点を伸ばす必要があるという認識ができ、今まで以上に粘り強く長時間学習に取り組んだり、考査前には授業のプリントを余分に教科担当にもらいに行き解き直しをしたり、教科担当に分からないところを積極的に質問に行くようになった。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

学習については動機づけが大切であるとわかった。ただ、動機づけができたからといって毎日の学習が習慣化するわけではない。教科書を読んで予習してから授業に臨もうと思っても、文字を読むのに時間も体力も使うため、教科書を読んでいた時は気付いたら寝てしまっていたり、内容が頭に残っていなかったりした。そのため、負担が少なく毎日続けられる音声での予習を取り入れた。教科書も本人が最も読みやすい大きさと読めるように、タブレットの画面上で拡大するようにした。また、学習方法と試験方法が対応していなければ、学習した成果は十分発揮されない。そのため、学習方法から考査時の合理的配慮を検討することも必要だと思う。このように、本人の特性に応じた学習手段を身につけた上で動機づけすることが、モチベーションを維持し、学力を伸ばす上で必要だと思った。

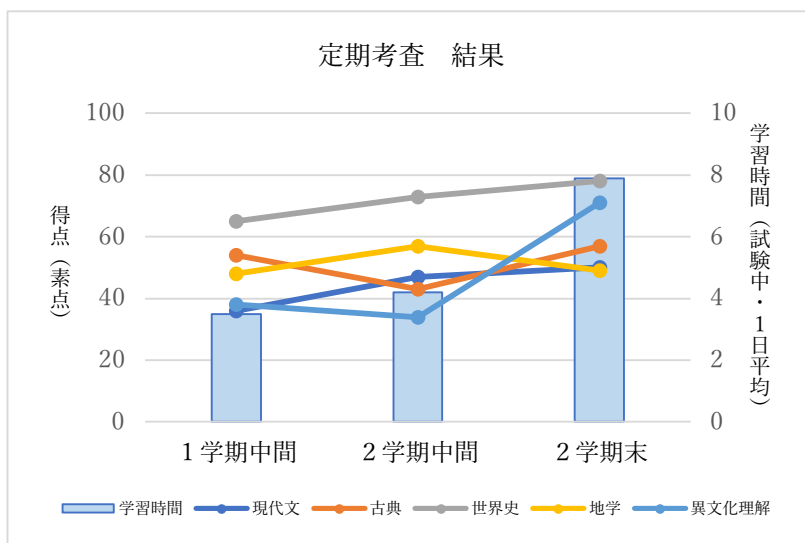
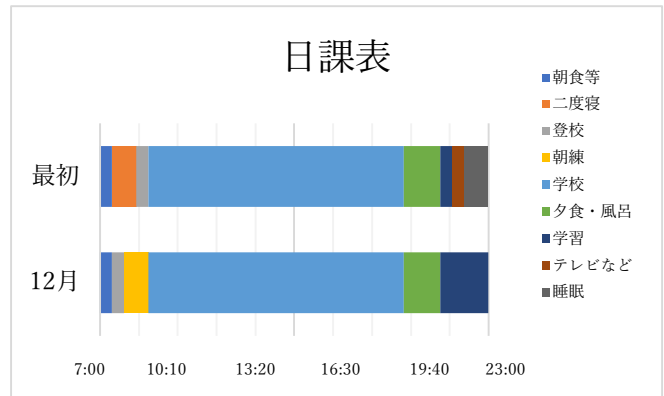
今回、学習について時間の目標は定めなかった。しかし、定期考査や模試の結果を一緒に確認し次への取り組みの具体例を示すことで学習時間が自然と増えていった。また、志望校進学のためには評定が必要であり、そのためには定期考査の得点が大切であるということも認識したことも影響しているのではないと思う。

普段から学習に取り組むことで、暗記することに少しずつ慣れ、粘り強く学習に取り組めたのではないかと考える。予習に取り組むようになって、世界史など成績が上がった教科もあったため、「予習のお陰かもしれませんね。やったらできるようになるんですね。また頑張ります。」と、さらにやる気が出ていた。

## ・エビデンス（具体的数値など）

学習時間がどこで取れそうか、また、真面目な生徒であるため睡眠時間を大幅に削ってまで課題に取り組んでいないか把握するために、一日の時間について聞き取りを行った。以前はやることもないから寝るといって一日10時間以上睡眠時間だったが、学習に取り組み始めてからは、夜の家庭学習の時間が大幅に増加している。

定期考査時の学習時間については、予習や個別の課題を始めてから飛躍的に増加している。個別の課題は定期考査中は実施していないことを加味すると、学習する習慣がついたことが大きく影響していると考えられる。



評定平均を意識するようになってからは、今まで苦手としていた英語に比重を置くようになった。これには、音声による学習が可能になったことで、本人の負担が軽減し、気軽に学習に取り組めるようになったことが関係している可能性もある。

また、成績が良くなるとさらに意欲が出る好循環になっている。

## ・その他エピソード

配慮について、最初は事前に予備のプリントを担当が準備したり教員からできることを伝えたり示したりしたが、それ以降は本人からの申し出により準備するようにすると生徒から申し出るようになった。プリントを生徒自身が教科担当にもらいに行くことで、コミュニケーションをとる機会が生まれ質問に行きやすくなったり、気にかけてくださる教員も増えた。

学習同様必要性を感じて、何が必要か、どんなことをして欲しいかを周りに伝えることができる力は、社会に出て必ず必要になる力であると思う。

本人が自分の特性を受け入れ、配慮を申し出ることができると同時に、周りの生徒の理解も大切であると思う。今回は特に全日制課程普通科高校の普通クラスであるため、疑問を感じる生徒や不公平感を持つ生徒がいるのではないかと対象生徒自身、心配していた。しかし、年度当初に生徒本人と保護者の了解を得て担任からクラスメイトに説明したことで、何より生徒本人がとてもよく努力することもあって、他の生徒からの疑問の声などはあまり聞かれなかった。周りの生徒と配慮が必要な生徒がコミュニケーションをとって、どんな生徒なのかを知っていくと、受け入れられやすいと感じた。